

[8] B

次の文章は、『無名抄』の一節で、和泉式部と赤染衛門の歌の才能を比較したものである。これを読んで、後の問に答えなさい。

式部・赤染が勝劣は、大納言一人定められたるにもあらず。世こそぞりて式部を優れたりと思へり。しかれど、人のしわざは、⁽¹⁾主のある世には、その人がらによりて劣り勝る事あり。歌の方は式部左右^{きう}なき上手なれども、身のふるまひもてなし、心持ちなど、赤染には及び難かりけるにや、紫式部が日記といふ物を見侍り^{はべ}しかば、「和泉式部はけしからぬ方こそあれ、うちとけて文走り書きたるに、その方の才^{ざい}ある人、はかなき言葉のほひも見え侍るめり。歌は⁽²⁾真の歌よみにはあらず。口に任せたる事どもに必ずをかしき一ふし目とまるをよみ添へ侍るめり。されど、人のよみたらん歌を難じ^{ことわ}理りたるらん、いでやさまでは心は得じ。ただ口に歌の⁽³⁾よまるるなんめり。はづかしの歌よみやとはおぼえず。丹波守の北方をば、宮殿わたりなどには『匡衡^{まきひら}衛門』とこそいひ侍れ。殊^{こと}にやむごとなき程ならねど、真にゆかしうぞ、歌よみとてよろづの事につけてよみ散らさねど、聞こえたる限りは、はかなきをりふしの事も、⁽⁴⁾これこそはづかしき口つきには侍れ』と書けり。⁽⁵⁾かかれば、その時は人さまにもち消たれて、歌の方にも思ふほど用

〔出題校〕

中央大

〔重要語句〕

- 世
- 左右なし
- 上手
- 侍り
- けしからず
- うちとく
- 文
- 才
- はかなし
- にほひ
- 見ゆ
- をかし
- 理る
- さまで
- 心(は)得
- はづかし
- おぼゆ
- 北方
- わたり
- やむごとなし
- 程

みられねど、真には上手なれば、秀歌も多く、ことに触れつつよみ置く程に、撰集せんじふどもにもあまた入れるにこそ。

注 式部・赤染……和泉式部と赤染衛門のこと。ともに中古三十六歌仙の一人。

大納言……藤原公任きんとう。公任は和泉式部の和歌の方が優れているとした。

丹波守……大江匡衡のこと。赤染衛門の夫。

撰集……勅撰集などの歌集。

問一 傍線(1)の「主のある世」とはどのようなことか。最も適当と思うものを左の中から選び、

符合で答えなさい。

- A 夫が生きている間。
- B 歌の作り主が生きている間。
- C 歌の作り主が誰か、わかつている間。
- D お仕えしている主人が生きている間。



- ゆかし
- よろづ
- 聞こゆ
- 限り
- をりふし
- かかれば
- あまた